

第18回ウイルス学キャンプ in 湯河原 開催のご案内

主催：ウイルス学キャンプ実行委員会

共催：日本ウイルス学会、JSPS 研究拠点形成事業 Core-to-Core Program「ウイルスの二面性の理解・活用のための国際研究拠点形成」

はじめに：「ウイルス学キャンプ」とは？

「ウイルス学キャンプ」は日本ウイルス学会 若手研究者育成プログラムの一環として 2004 年から始まった一泊二日の研究会で、古くより多くの芸術・思索が生み出された湯河原町で開催しています。全国の大学・研究機関等に所属する大学院生・学部生・ポスドク・若手教職員に、招待演者と世話人を加え、例年 50 人程度で開催しています。世話人も居ますが、一般参加者の方々には基本にご自身がこの会に積極的に参加いただくスタイルです。ご自身の研究を口頭あるいはポスター発表、聴衆からのフィードバックを得るだけでなく、他の発表にも遠慮なく議論いただく機会となっていますし、今後求める企画・発案ももちろん welcome です。

大きな学会では発表だけで終わってしまい、いまひとつ深い話をするきっかけがないと感じている方、研究室外の人たちや先生から本音の意見やアドバイスが欲しい方、同じ境遇の知り合いを求めている方、ほかにもコロナ禍での外出の億劫さから一歩踏み出したい方、コミュニケーション不足を感じている方など、そんなみなさんの要求に応える会です。今後のご自身に重要な出会いとなるかもしれません。時間の制約をできるだけ払い、参加して良かったと思って帰っていただければ幸いです。

若手のための会ですが、若手に特に定義があるわけではありません。もちろん日本ウイルス学会員限定の会でもありません。ご興味あるみなさま方のご参加をお待ちしています。



ウイルス学キャンプ in 湯河原
若手研究者のウイルス集会 (Since 2004)



【開催概要】

日時：2024年7月16日（火）12:40 ～ 7月17日（水）12:00 まで（予定）

場所：ニューウェルシティ湯河原

静岡県熱海市泉 107

TEL：0465-63-3721

<http://www.welcity-yugawara.co.jp/>

湯河原駅（JR 東海道本線）下車、バス 2 番乗り場

奥湯河原行・不動滝行 約 7 分、「理想郷」下車、徒歩 1 分

対象：主に若手研究者（大学院生、学部生、ポスドク、教職員/常勤研究者など）。

非ウイルス学会員の参加も歓迎します。研究を真剣に行っている・行いたい方。

おおまかなプログラム：

< 7月16日（火） >

* 招待講演 ～ 新進気鋭の研究者から最新の研究のお話 ～

1. 演題：「融合遺伝子が支配する麻疹ウイルス神経病原性」

東京医科歯科大学医歯学総合研究科ウイルス制御学分野 教授 白銀 勇太 先生

[要旨] 麻疹（はしか）は、高熱と皮疹を伴うウイルス感染症であり、今なお途上国を中心に深刻な影響を与えています。強い感染力を持ち、急性感染による致死率は先進国では 0.1% 程度ですが、発展途上国では 5% に達することもあります。また、病原体の麻疹ウイルス（MeV）は、回復後もまれに脳に潜伏感染し、数年後に亜急性硬化性全脳炎という致死性の脳炎を引き起こすことがあります。この病気は、本来神経系で増殖できない MeV が患者の脳内で変異し進化するために起こります。本セミナーでは、この進化メカニズムに関する最新の研究成果を紹介し、ウイルスの多様な進化の可能性について議論します。

2. 演題：「哺乳類ゲノムに内在するウイルス様配列の多様性と進化」

東海大学医学部 准教授 中川 草 先生

[要旨] 様々な哺乳類のゲノムにはレトロウイルスの膜タンパク質に由来する配列が存在し、特にその細胞融合能が胎盤の発生に関与することが知られている。しかし、哺乳類の中でその起源は同一ではなく、非常に多様であることが知られている。我々はヒト胎盤の発生に寄与することが知られている syncytin-1 と syncytin-2 遺伝子について、様々な霊長類ゲノムを解析し、そのアミノ酸コード配列がいくつかの霊長類では保存されていないことを明らかにした。更に、胎盤を持たない卵生の哺乳類であるハリモグラでも膜融合のもつレトロウイルスの膜タンパク質由来の配列が存在することを明らかにした。これまでの研究により、ウイルスに由来する配列は哺乳類をはじめとする様々な宿主ゲノムに大量に入り込んでいて、種ごとに多様な機能を果たしている可能性があることを示した。

* 口頭発表（発表時間（予定）は 10-15 分程度 + 質疑応答）

～ 希望者から数名選出させていただきます ～

* ポスター発表

～ 口頭発表以外の一般参加者は基本的に全員ポスター発表をお願いします。

発表できるデータがない方は現在進行中あるいは今後の研究計画など ～

* 夕食、お風呂

* 班別ポスター討論

< 7月17日（水） >

* いまだから聞けるウイルス学講座 ～ 華々しい研究の場面から舞台裏まで ～

3. 演題：「がんウイルスの腫瘍化メカニズムの解明」

名古屋大学大学院医学系研究科 教授 木村 宏 先生

[要旨] ヒトには7種類のがんウイルスがあるが、いずれも感染しただけでは腫瘍化（がん化）に至らない。なぜ、がんウイルスが一部の個体にのみ腫瘍を形成するのかは、未解明な部分が多い。Epstein-Barr virus (EBV) は、ほとんどの成人に感染している普遍的なウイルスである一方、バーキットリンパ腫や胃がんなど、様々なリンパ腫/上皮系腫瘍の原因にもなる。我々は、EBV 関連腫瘍患者では高率に EBV 遺伝子の一部が欠失していること、特定のゲノム欠失が腫瘍化を促進することを明らかにしてきた。本講義では、がんウイルスの発見など腫瘍ウイルス一般についての歴史的由来について触れながら、EBV を中心にがんウイルスの腫瘍化メカニズムについて概説する。

* 若手研究者のためのキャリアパス講座 ～ 研究者キャリアを多面的に考える ～

4. 演題：「アナリストの視点からみるバイオ・医薬品業界の動向」

みずほ証券 エクイティ調査部 シニアアナリスト 都築 伸弥 先生

[要旨] 新型コロナウイルス感染症の流行以降、各国の製薬・バイオ企業のパフォーマンスには日米欧で大きな差が生まれております。薬価・保険制度・資金調達環境面でも違いがある中で、現在日本はどのような状況で、どのような見通しが示されているのかアナリストの立場から解説します。また国内製薬業界全体におけるドラッグラグ・ロスの課題、感染症・ウイルス学領域の市場見通し等も示しながら、国内のバイオセクターを例として、企業による中長期的なポテンシャルを含めた情報開示の重要性、安定投資家であるクロスオーバー投資家の呼び込みの重要性等も解説したいと思います。また上記のような論点を踏まえた上で、日本の製薬・バイオ業界における真に必要なとされる人材への私見も述べさせて頂く予定です。

*テクニカルセミナー ～ 役立てよう、こんな技術を使いたい! ～

5. 演題：「ウイルスを視る：古くて新しい電子顕微鏡解析」

京都大学医生物学研究所微細構造ウイルス学分野 教授 野田 岳志 先生

[要旨] 1970-80年代、ウイルス粒子や感染細胞の電子顕微鏡解析が盛んにおこなわれていたが、1990年代以降はあまり用いられない技術となった。しかし、電子顕微鏡法はウイルス粒子の形態を直接可視化できる唯一の手法であり、現在のウイルス学研究においても欠かすことができない技術である。本セミナーでは、電子顕微鏡試料をどのように作製するのか？電子顕微鏡で何が見えるのか？電子顕微鏡法でどのようなことを明らかにできるのかについて、わたしたちの研究成果とともに解説する。

詳細なプログラムは後日、参加者に直接お知らせします。

なおコロナ対策の都合上、参加者の方々は当日検温を実施いただき、熱発などがないことを確認の上でご参加ください。

【参加に関して】

定員：計 50 名（先着順で、定員になり次第締切らせていただきます）

費用（予定）：参加費 3,000 円 + 宿泊費 9,500 円

参加申込方法：

次ページの書式にご記入いただき、電子メールで下記までご連絡下さい。

【宛先】 e-mail: virology-camp*nih.go.jp(*を@に変更して送信してください)

ウイルス学キャンプ in 湯河原 事務局

渡士 幸一（国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター）

【締切】 2024 年 6 月 7 日（金） ※延長しました。

第 18 回 ウイルス学キャンプ in 湯河原 参加申込書

氏名：(フリガナもお願いします)

性別：(部屋割りを決めるために記入お願いします)

所属：

職位：(学生、大学院生の場合は学年も)

電子メールアドレス：

発表演題名：

希望発表形式：(1. 口頭セッション 2. ポスターセッション 3. おまかせ)

要旨 (200 字程度) (希望発表形式 1 or 3 の場合にご記入ください)：

宿泊部屋の希望：1. シングル 2. 大部屋 (4~5 人) ※1

※宿泊部屋については限りがありますので必ずしも希望の通りとならない場合がありますことをご了承ください。

みなさまの多くのご参加をお待ちしています。

ウイルス学キャンプ世話人一同

(迫田 義博、川口 敦史、モイ メンリン、佐藤 佳、一戸 猛志、立川 愛、鈴木 忠樹、
森石 恆司、村田 貴之、岩谷 靖雅、野田 岳志、高田 礼人、川口 寧、渡士 幸一)